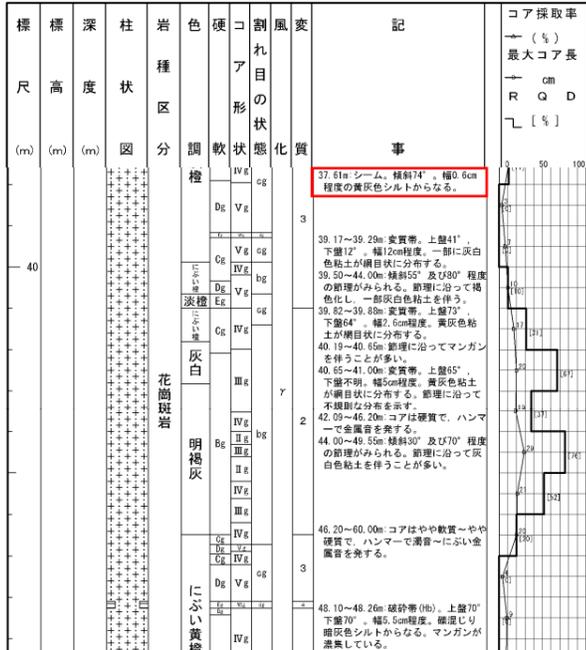


柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H20-①-10孔 深度37.61m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。

委託報告書 (平成20年)



設置許可申請書案

記事
39.17~39.29m ・変質している。 ・一部灰白色粘土が網目状に分布する。 ・上端境界の傾斜は41°、下端境界の傾斜は12°である。
39.82~39.88 ・変質している。 ・黄灰色粘土が網目状に分布する。 ・上端境界の傾斜は73°、下端境界の傾斜は64°である。
40.65~41.00m ・変質している。 ・黄灰色粘土が網目状に分布する。
42.09~46.20m ・硬質で割れ目が少なく、柱状を呈する。
●48.10~48.26m ・破碎部である。 ・暗灰色の凝混じりシルト状を呈する。 ・走向・傾斜はN6° E77° Wである。 ・上盤境界の傾斜は70°、下盤境界の傾斜は70°である。

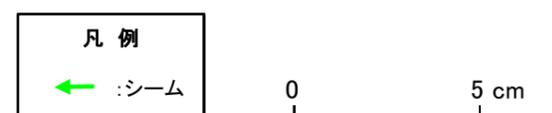
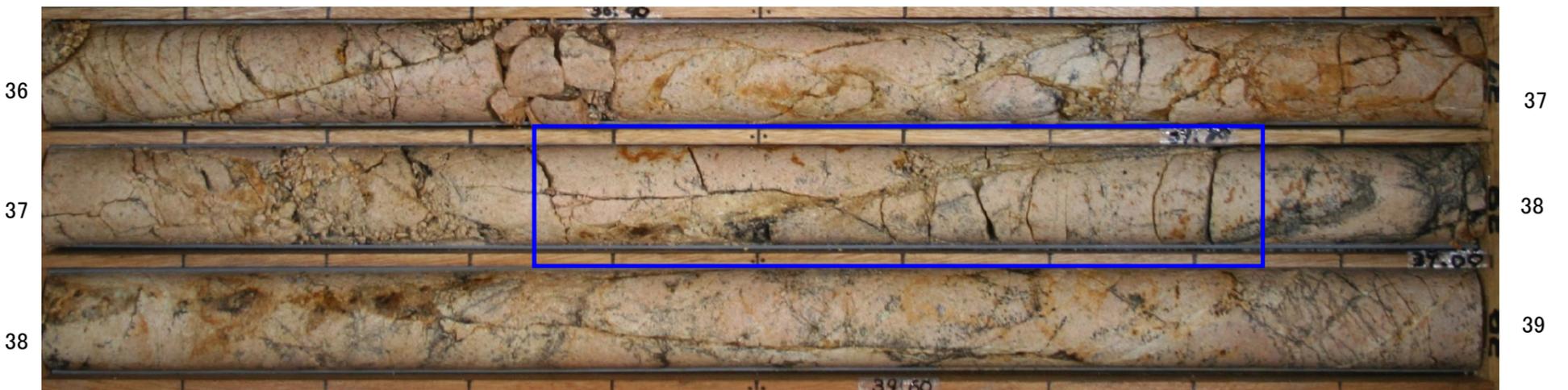
設置許可申請書 (平成27年11月)

記事
39.17~39.29m ・変質している。 ・一部灰白色粘土が網目状に分布する。 ・上端境界の傾斜は41°、下端境界の傾斜は12°である。
39.82~39.88 ・変質している。 ・黄灰色粘土が網目状に分布する。 ・上端境界の傾斜は73°、下端境界の傾斜は64°である。
40.65~41.00m ・変質している。 ・黄灰色粘土が網目状に分布する。
42.09~46.20m ・硬質で割れ目が少なく、柱状を呈する。
●48.10~48.26m ・破碎部である。 ・暗灰色の凝混じりシルト状を呈する。 ・走向・傾斜はN6° E77° Wである。 ・上盤境界の傾斜は70°、下盤境界の傾斜は70°である。

審査資料 (平成29年12月22日)

記事
39.17~39.29m ・変質している。 ・一部灰白色粘土が網目状に分布する。
39.82~39.88m ・変質している。 ・黄灰色粘土が網目状に分布する。
40.65~41.00m ・変質している。 ・黄灰色粘土が網目状に分布する。
42.09~46.20m ・硬質で割れ目が少なく、柱状を呈する。
●48.10~48.24m (D-45破碎帯) ・破碎部である。 ・暗灰色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN6° E77° Wである。 ・上盤境界の傾斜は70°、下端境界の傾斜は74°である。

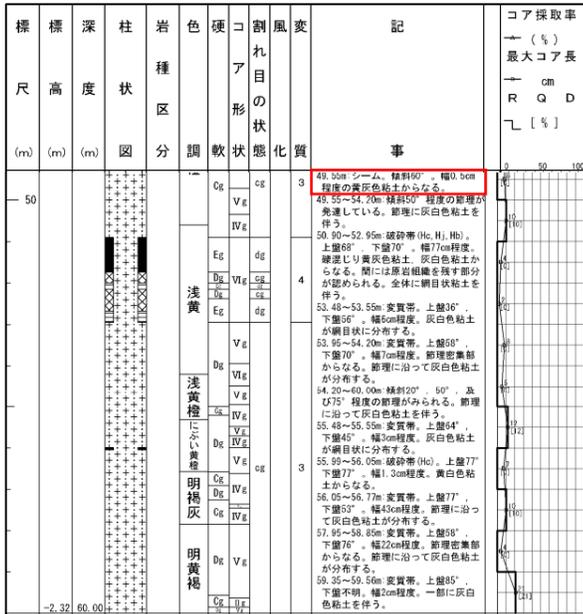
委託報告書 (平成20年)	設置許可申請書案	設置許可申請書 (平成27年11月)	審査資料 (平成29年12月22日)
37.61m:シーム。傾斜74°。幅0.6cm程度の黄灰色シルトからなる。	記載なし	記載なし	記載なし



柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H20-①-10孔 深度49.55m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。

委託報告書 (平成20年)



設置許可申請書案

設置許可申請書案の記載事項。シームの性状は、傾斜60°、幅0.5cm程度の黄灰色粘土からなる。周囲の岩盤は、主に浅黄色の固結礫状部からなる。灰白色の未固結粘土状部は、黒計幅0.5cmである。走向・傾斜はNS71° Wである。上盤境界の傾斜は69°、下盤境界の傾斜は70°である。

設置許可申請書 (平成27年11月)

設置許可申請書 (平成27年11月) の記載事項。シームの性状は、傾斜60°、幅0.5cm程度の黄灰色粘土からなる。周囲の岩盤は、主に浅黄色の固結礫状部からなる。灰白色の未固結粘土状部は、黒計幅0.5cmである。走向・傾斜はNS71° Wである。上盤境界の傾斜は69°、下盤境界の傾斜は70°である。

審査資料 (平成29年12月22日)

審査資料 (平成29年12月22日) の記載事項。シームの性状は、傾斜60°、幅0.5cm程度の黄灰色粘土からなる。周囲の岩盤は、主に浅黄色の固結礫状部からなる。灰白色の未固結粘土状部は、黒計幅0.5cmである。走向・傾斜はNS71° Wである。上盤境界の傾斜は69°、下盤境界の傾斜は70°である。

委託報告書 (平成20年)	設置許可申請書案	設置許可申請書 (平成27年11月)	審査資料 (平成29年12月22日)
49.55m:シーム。傾斜60°。幅0.5cm程度の黄灰色粘土からなる。	記載なし	記載なし	記載なし



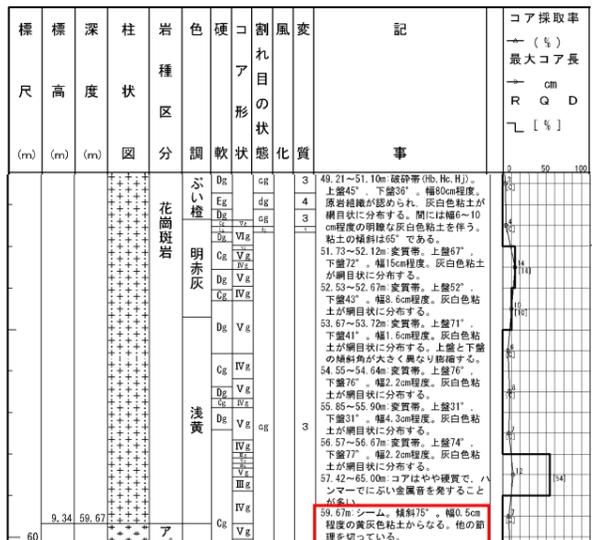
凡例
← :シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H20-②-1孔 深度59.67m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。

委託報告書 (平成20年)



設置許可申請書案

記 事

- 49.21～51.10m (D-1破碎帯)
- ・破碎部である。
- ・右ずれ正断層センスである。
- ・灰白色の粘土状～粘土混じり礫状を呈する。
- ・灰白色粘土：累計厚100mm
- ・走向・傾斜は未測定。
- ・上盤境界の傾斜は45°、下盤境界の傾斜は36°、主せん断面の傾斜は65°である。
- 51.10～57.42m
- ・軟質である。
- 51.73～52.12m
- 52.53～52.67m
- 53.67～53.72m
- 54.55～54.64m
- 55.85～55.90m
- 56.57～56.67m
- ・変質している。
- ・灰白色粘土が網目状に分布する。
- ・上端境界の傾斜は31°～76°、下端境界の傾斜は31°～77°である。
- 57.42～65.00m
- ・中硬質である。

設置許可申請書 (平成27年11月)

記 事

- 49.21～51.10m (D-1破碎帯)
- ・破碎部である。
- ・右ずれ正断層センスである。
- ・灰白色の粘土状～粘土混じり礫状を呈する。
- ・灰白色粘土：累計厚100mm
- ・走向・傾斜は未測定。
- ・上盤境界の傾斜は45°、下盤境界の傾斜は36°、主せん断面の傾斜は65°である。
- 51.10～57.42m
- ・軟質である。
- 51.73～52.12m
- 52.53～52.67m
- 53.67～53.72m
- 54.55～54.64m
- 55.85～55.90m
- 56.57～56.67m
- ・変質している。
- ・灰白色粘土が網目状に分布する。
- ・上端境界の傾斜は31°～76°、下端境界の傾斜は31°～77°である。
- 57.42～65.00m
- ・中硬質である。

審査資料 (平成29年12月22日)

記 事

- 49.21～51.10m (D-1破碎帯)
- ・破碎部である。
- ・右ずれ正断層センスである。
- ・主に淡桃灰～褐色の固結礫状部、灰白色の固結砂状部及び固結粘土状部からなる。
- ・橙色の未面結粘土状部：累計厚0.8cm
- ・上端境界の傾斜は45°、下端境界の傾斜は36°、主せん断面の傾斜は65°である。
- 51.10～57.42m
- ・軟質である。
- 51.73～52.12m
- 52.53～52.67m
- 53.67～53.72m
- 54.55～54.64m
- 55.85～55.90m
- 56.57～56.67m
- ・変質している。
- ・灰白色粘土が網目状に分布する。
- 57.42～65.00m
- ・中硬質である。

委託報告書 (平成20年)	設置許可申請書案	設置許可申請書 (平成27年11月)	審査資料 (平成29年12月22日)
59.67m:シーム。傾斜75°。幅0.5cm程度の黄灰色粘土からなる。他の節理を切っている。	記載なし	記載なし	記載なし



凡 例
← :シーム

0 5 cm

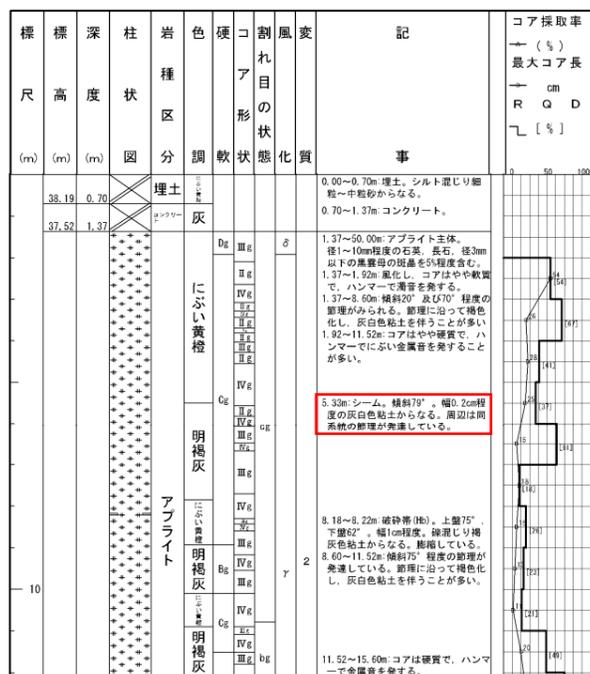
柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H20-③-1孔 深度5.33m)

・粘土状を呈するが、その分布は殲滅し連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。

委託報告書 (平成20年)

審査資料案

審査資料 (平成30年11月30日)



記事
0.00~0.70m ・埋土である。 ・シルト混じり細~中粒砂である。
0.70~1.37m ・コンクリートである。
1.37~50.00m ・アブライト主体である。
1.37~1.92m ・風化部である。
5.33m ・幅0.2cm程度の灰白色粘土からなる。
●8.18~8.22m (f-③-1-1 破碎帯) ・破碎部である。 ・褐灰色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN79° W73° Sである。 ・上端境界の傾斜は75°、下端境界の傾斜は62°である。

記事
0.00~0.70m ・埋土である。 ・シルト混じり細~中粒砂である。
0.70~1.37m ・コンクリートである。
1.37~50.00m ・アブライト主体である。
1.37~1.92m ・風化部である。
5.33m ・幅0.2cm程度の灰白色粘土からなる。
●8.18~8.22m (f-③-1-1 破碎帯) ・破碎部である。 ・褐灰色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN79° W73° Sである。 ・上端境界の傾斜は75°、下端境界の傾斜は62°である。

委託報告書 (平成20年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
5.33mシーム。傾斜79°。幅0.2cm程度の灰白色粘土からなる。周辺は同系統の節理が発達している。	5.33m ・幅0.2cm程度の灰白色粘土からなる。	5.33m ・幅0.2cm程度の灰白色粘土からなる。



凡例
← シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-④-1孔 5.63m)

・粘土状を呈するが、その分布は殲滅し連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。

**委託報告書
(平成20年)**

標尺	標高	深度	柱状図	岩種	色調	硬軟	割れ目の形状	変質	記	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D □ [%]
52.97	0.30			黄褐					0.00~0.30m 腐植質シルト。 0.30~0.74m 砂混じりシルト。 0.74~1.13m 径3~6cm程度の花崗斑岩のクサリ礫を含有したシルト 1.13~5.60m アブライト。 径1~10mm程度の石英、長石、径4mm以下の黒雲母の斑を3~5%程度含む。	50 100
52.53	0.74			アブライト					1.13~7.06m コアはやや硬質で、ハンマーでぶい金属音を発することが多い。 1.13~1.83m 傾斜20°程度の節理がみられる。 1.83~25.53m 傾斜70°程度の節理が発達している。節理に沿って灰白色粘土を伴う。 3.18m 幅10cm程度の石英脈を挟む。傾斜63°程度。	
47.67	5.60			花崗斑岩					5.60~10.05m 花崗斑岩主体。 径1~10mm程度の石英、長石、径3mm以下の黒雲母の斑を20%程度含む アブライトとの境界は漸移的である	
47.23	6.04								5.63m シーム。傾斜63°。幅0.2cm程度の灰白色粘土からなる。石英脈を切っている。	
47.15	6.14									

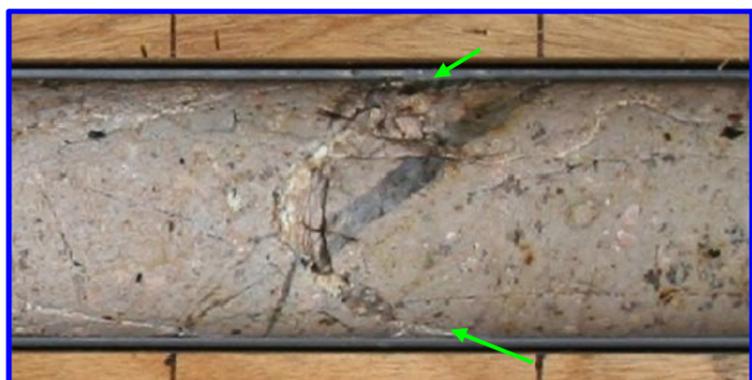
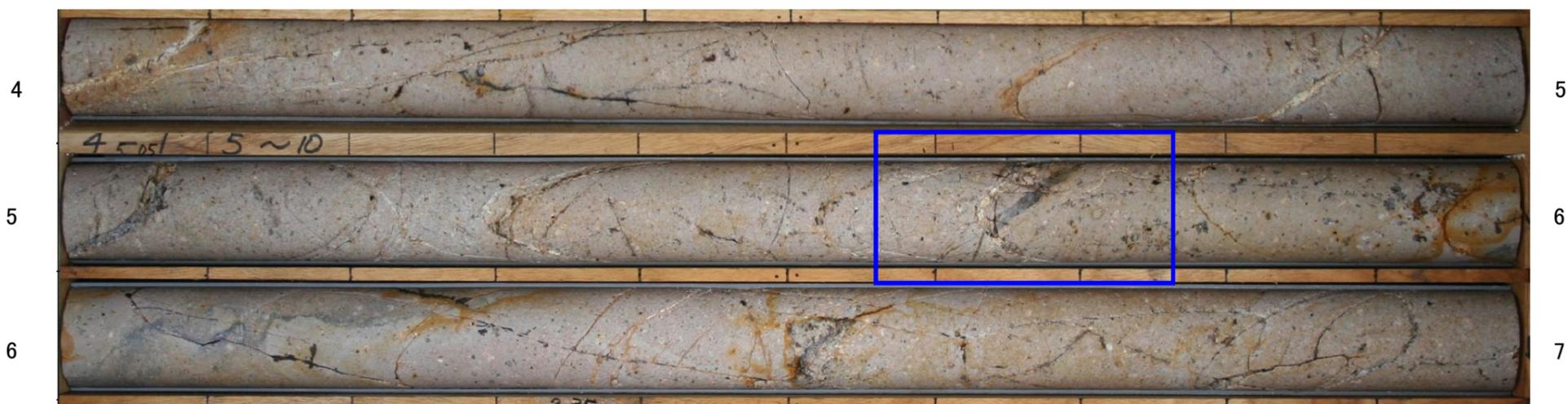
審査資料案

記事
0.00~0.30m ・有機質シルトである。
0.30~0.74m ・砂混じりシルトである。
0.74~1.13m ・礫混じりシルトである。 ・径3~6cm程度の花崗斑岩のクサリ礫を含む。
1.13~5.60m ・アブライトである。
5.60~10.05m ・花崗斑岩主体である。 ・アブライトとの境界は漸移的である。

**審査資料
(平成30年11月30日)**

記事
0.00~0.30m ・有機質シルトである。
0.30~0.74m ・砂混じりシルトである。
0.74~1.13m ・礫混じりシルトである。 ・径3~6cm程度の花崗斑岩のクサリ礫を含む。
1.13~5.60m ・アブライトである。
5.60~10.05m ・花崗斑岩主体である。 ・アブライトとの境界は漸移的である。

委託報告書 (平成20年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
5.63mシーム。傾斜63°。幅0.2cm程度の灰白色粘土からなる。石英脈を切っている。	記載なし	記載なし



凡例
← シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-④-2孔 23.30m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。

**委託報告書
(平成20年)**

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色調	硬軟	割れ目	風化	変質	記	コ
(m)	(m)	(m)	図	区分		状	の	化	質	事	採取率
							形状	状態			(%)
37.61	21.90			花崗斑岩	灰黄	IVg	3			20.70m 幅5mm程度の石英脈を挟む。傾斜56°程度。傾斜31°。幅58cm程度。微細な節理が発達し、灰白色粘土を伴う。	0
37.19	22.50			花崗斑岩	灰黄	IVg	3			21.05~21.65m 変質帯。上盤14°。下盤31°。幅58cm程度。微細な節理が発達し、灰白色粘土を伴う。	50
36.67	23.30			花崗斑岩	灰黄	IVg	3			21.88m 幅3mm程度の石英脈を挟む。傾斜57°程度。	100
36.24	23.85			花崗斑岩	灰黄	IVg	3			23.10m 幅5~10mm程度の石英脈を挟む。傾斜85°程度。下記のシームで知られる。	
35.85	24.39			花崗斑岩	灰黄	IVg	3			23.30m シーム。傾斜68°。幅0.2cm程度の淡褐色粘土からなる。石英脈及び他の節理を切っている。	
35.32	25.15			花崗斑岩	灰黄	IVg	3			23.92m 幅5mm程度の石英脈を挟む。傾斜45°程度。	
34.42	26.42			花崗斑岩	灰黄	IVg	3			25.51~25.56m 変質帯。上盤30°。下盤40°。幅16cm程度。軟質化している。	
34.11	26.85			花崗斑岩	灰黄	IVg	3			26.00~26.23m 変質帯。上盤不明。下盤40°。幅16cm程度。軟質化している。褐色を呈する。	
33.56	27.63			花崗斑岩	灰黄	IVg	3			29.72~29.81m 変質帯。上盤20°。下盤31°。幅7.7cm程度。土砂状を呈する。	
32.98	28.46			花崗斑岩	灰黄	IVg	3			31.12~43.15m 花崗斑岩。径2~20mm程度の石英、灰石、径5mm以下の黒雲母の結晶を15~30%程度含む。上位の花崗斑岩に比べて珪晶が自立する。	
31.82	30.10			花崗斑岩	灰黄	IVg	3				
31.09	31.12			花崗斑岩	灰黄	IVg	3				

**審査資料案
(平成30年11月30日)**

記	事
20.15~20.42m, 21.90~22.50m, 23.30~23.85m, 24.39~25.15m, 26.42~26.85m, 27.63~28.40m, 30.10~31.12m	・アブライトである。
20.70m	・幅5mmの石英脈を挟む。
21.05~21.65m	・変質している。
	・微細な割れ目が発達し、灰白色粘土を伴う。
21.88m	・幅3mmの石英脈を挟む。
23.10m	・幅5~10mmの石英脈を挟む。
23.92m	・幅5mm程度の石英脈を挟む。
25.51~25.56m	・変質している。
	・軟質化している。
26.00~26.23m	・変質している。
	・褐色を呈し、軟質化している。
29.72~29.81m	・変質している。
	・土砂状を呈する。

**審査資料
(平成30年11月30日)**

記	事
20.15~20.42m, 21.90~22.50m, 23.30~23.85m, 24.39~25.15m, 26.42~26.85m, 27.63~28.40m, 30.10~31.12m	・アブライトである。
20.70m	・幅5mmの石英脈を挟む。
21.05~21.65m	・変質している。
	・微細な割れ目が発達し、灰白色粘土を伴う。
21.88m	・幅3mmの石英脈を挟む。
23.10m	・幅5~10mmの石英脈を挟む。
23.92m	・幅5mm程度の石英脈を挟む。
25.51~25.56m	・変質している。
	・軟質化している。
26.00~26.23m	・変質している。
	・褐色を呈し、軟質化している。
29.72~29.81m	・変質している。
	・土砂状を呈する。

委託報告書 (平成20年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
23.30m:シーム。傾斜68°。幅0.2cm程度の淡褐色粘土からなる。石英脈及び他の節理を切っている。	記載なし	記載なし



凡例

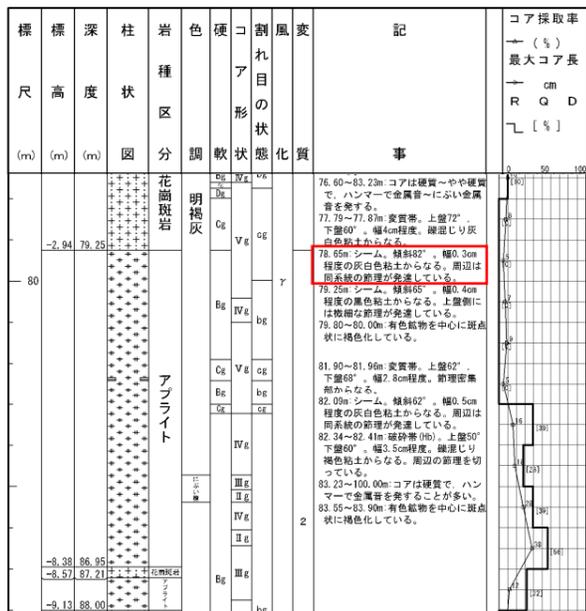
← シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-④-2孔 78.65m)

・粘土状を呈するが、その分布は殲滅し連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。

委託報告書 (平成20年)



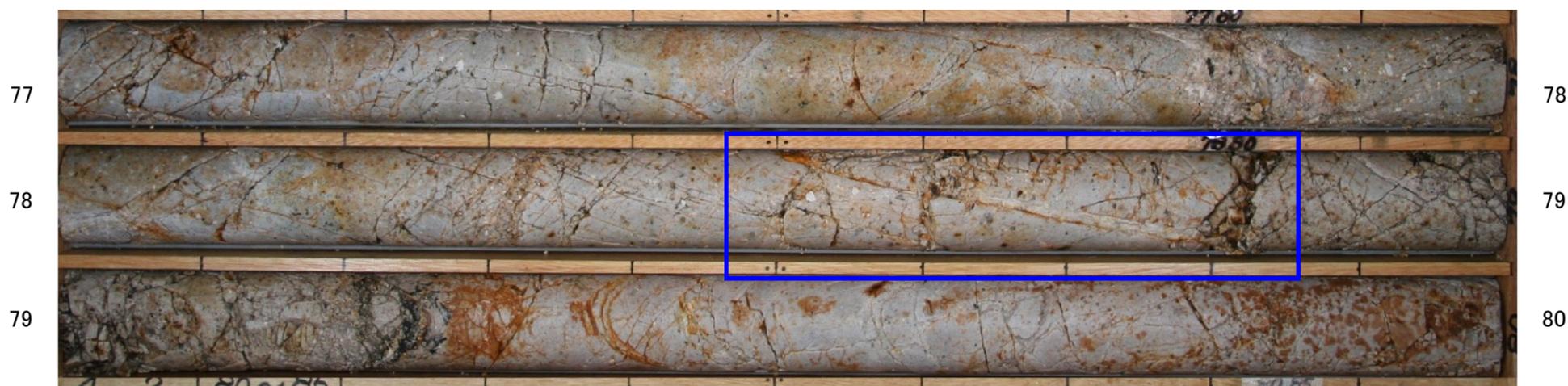
審査資料案

記事
77.79~77.87m ・変質している。 ・礫混じり粘土状を呈する。 81.90~81.96m ・変質している。 ・割れ目が密集する。 ●82.34~82.41m(f-④-2-3破碎帯) ・破碎部である。 ・褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN4° W67° Wである。 ・上端境界の傾斜は50°、下端境界の傾斜は60°である。 83.55~83.90m ・斑点状に褐色化している。

審査資料 (平成30年11月30日)

記事
77.79~77.87m ・変質している。 ・礫混じり粘土状を呈する。 81.90~81.96m ・変質している。 ・割れ目が密集する。 ●82.34~82.41m(f-④-2-3破碎帯) ・破碎部である。 ・褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN4° W67° Wである。 ・上端境界の傾斜は50°、下端境界の傾斜は60°である。 83.55~83.90m ・斑点状に褐色化している。

委託報告書 (平成20年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
78.65mシーム。傾斜82°。幅0.3cm程度の灰白色粘土からなる。周辺は同系統の節理が発達している。	記載なし	記載なし

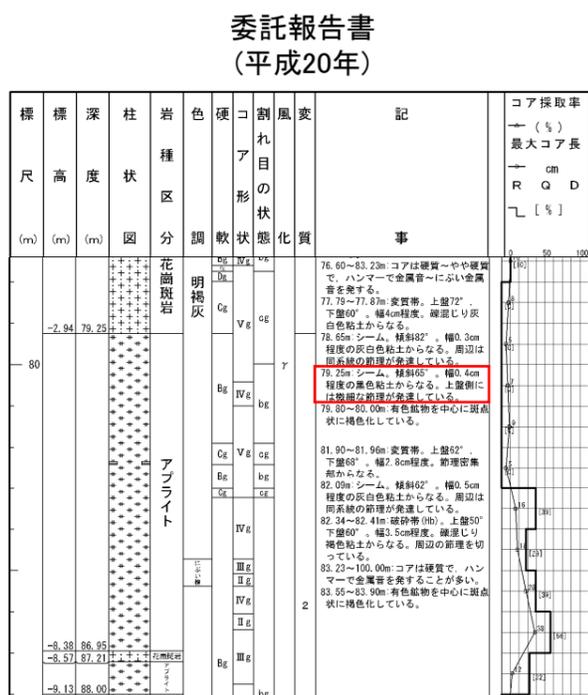


凡例
← シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-④-2孔 79.25m)

・粘土状を呈するが、その分布は殲滅し連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。



審査資料案

記事
77.79~77.87m ・変質している。 ・礫混じり粘土状を呈する。
81.90~81.96m ・変質している。 ・割れ目が密集する。
●82.34~82.41m(f-④-2-3破碎帯) ・破碎部である。 ・褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN4° W67° Wである。 ・上端境界の傾斜は50°、下端境界の傾斜は60°である。
83.55~83.90m ・斑点状に褐色化している。

**審査資料
(平成30年11月30日)**

記事
77.79~77.87m ・変質している。 ・礫混じり粘土状を呈する。
81.90~81.96m ・変質している。 ・割れ目が密集する。
●82.34~82.41m(f-④-2-3破碎帯) ・破碎部である。 ・褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN4° W67° Wである。 ・上端境界の傾斜は50°、下端境界の傾斜は60°である。
83.55~83.90m ・斑点状に褐色化している。

委託報告書 (平成20年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
79.25mシーム。傾斜65°。幅0.4cm程度の黒色粘土からなる。上盤側には微細な節理が発達している。	記載なし	記載なし



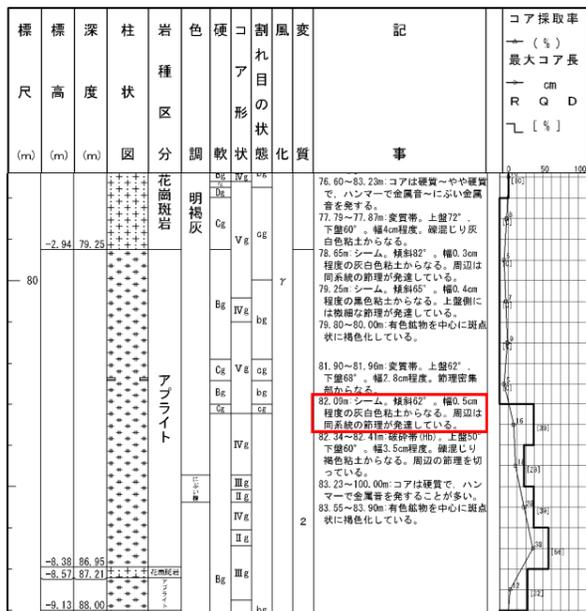
凡例
← :シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-④-2孔 82.09m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。

委託報告書 (平成20年)



審査資料案

記事
77.79~77.87m ・変質している。 ・凝混じり粘土状を呈する。 81.90~81.96m ・変質している。 ・割れ目が密集する。 ●82.34~82.41m(f-④-2-3破碎帯) ・破碎部である。 ・褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN4° W67° Wである。 ・上端境界の傾斜は50°、下端境界の傾斜は60°である。 83.55~83.90m ・斑点状に褐色化している。

審査資料 (平成30年11月30日)

記事
77.79~77.87m ・変質している。 ・凝混じり粘土状を呈する。 81.90~81.96m ・変質している。 ・割れ目が密集する。 ●82.34~82.41m(f-④-2-3破碎帯) ・破碎部である。 ・褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN4° W67° Wである。 ・上端境界の傾斜は50°、下端境界の傾斜は60°である。 83.55~83.90m ・斑点状に褐色化している。

委託報告書 (平成20年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
82.09mシーム。傾斜62°。幅0.5cm程度の灰白色粘土からなる。周辺は同系統の節理が発達している。	記載なし	記載なし

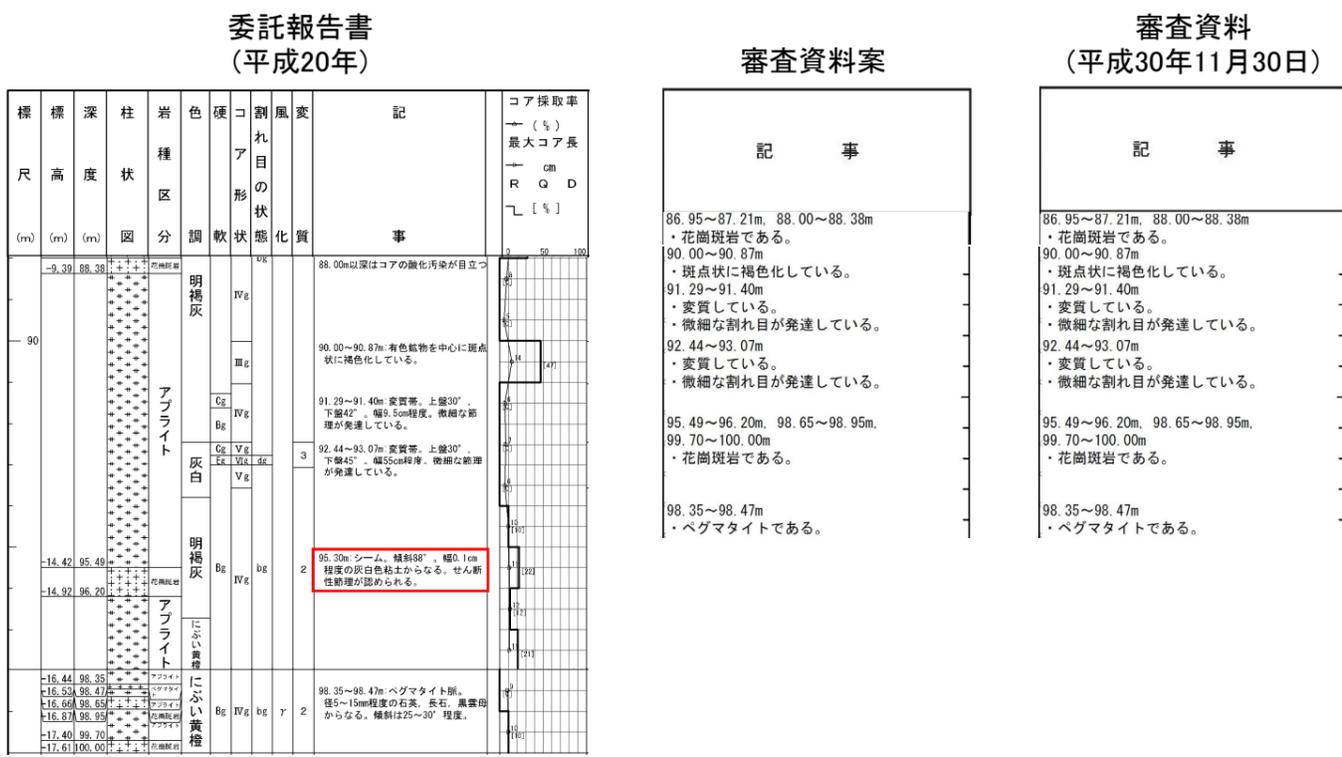


凡例
← シーム

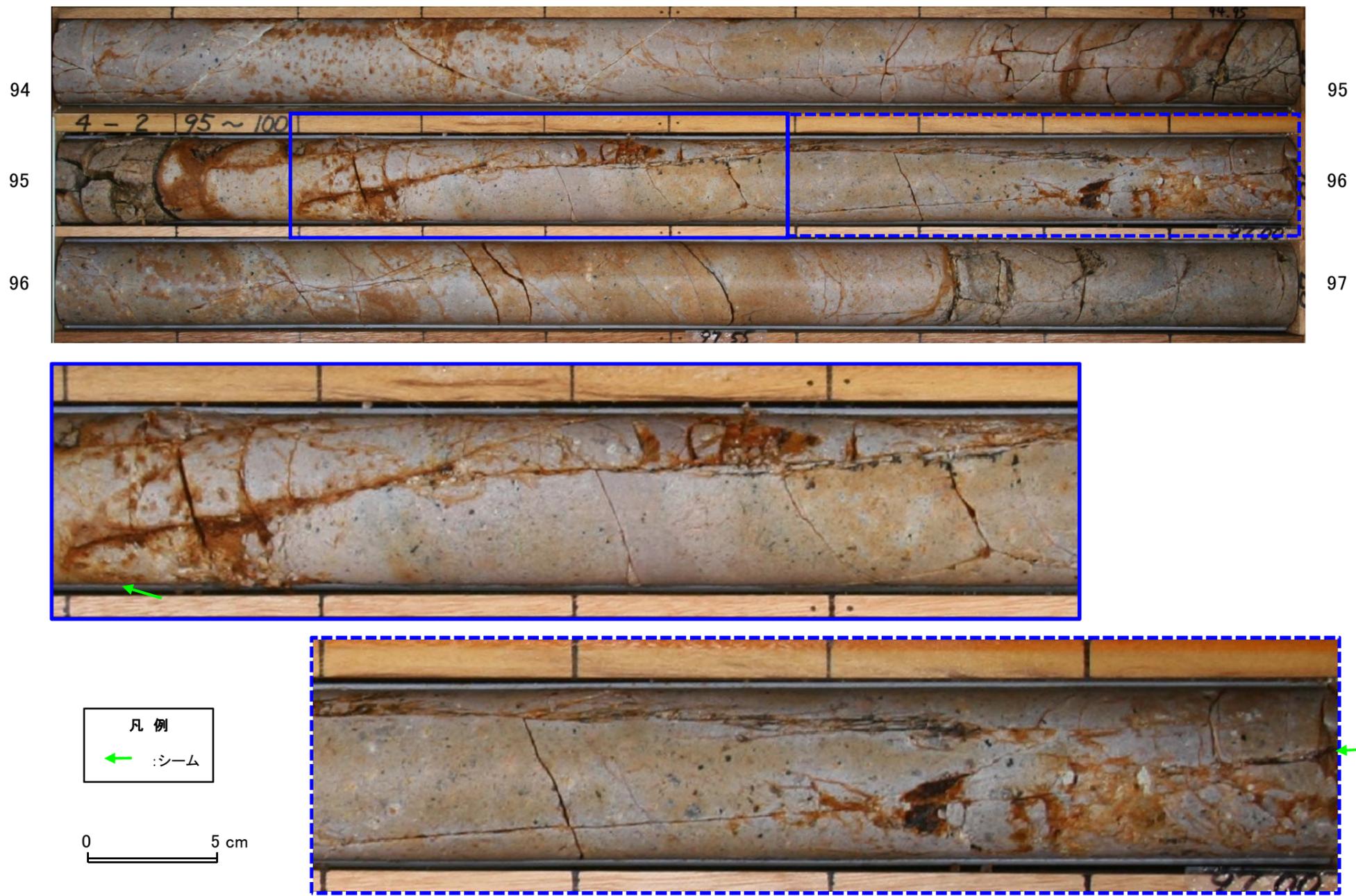
0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-④-2孔 95.30m)

・粘土状を呈するが、その分布は局所的であり連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



委託報告書 (平成20年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
95.30mシーム。傾斜88°。幅0.1cm程度の灰白色粘土からなる。せん断性節理が認められる。	記載なし	記載なし



柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-④-4孔 7.47m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



記事
6.21~6.40m ・変質している。 ・軟質である。
9.05~11.15m, 13.17~13.58m, 14.03~15.94m ・アブライトである。
11.54~11.61m ・変質している。 ・割れ目が発達し、格子状を呈する。 ・割れ目に沿って灰白色の粘土を挟む。

記事
6.21~6.40m ・変質している。 ・軟質である。
9.05~11.15m, 13.17~13.58m, 14.03~15.94m ・アブライトである。
11.54~11.61m ・変質している。 ・割れ目が発達し、格子状を呈する。 ・割れ目に沿って灰白色の粘土を挟む。

委託報告書 (平成20年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
7.47mシーム。傾斜65°。幅0.2cm程度の褐色、灰白色粘土からなる。	記載なし	記載なし

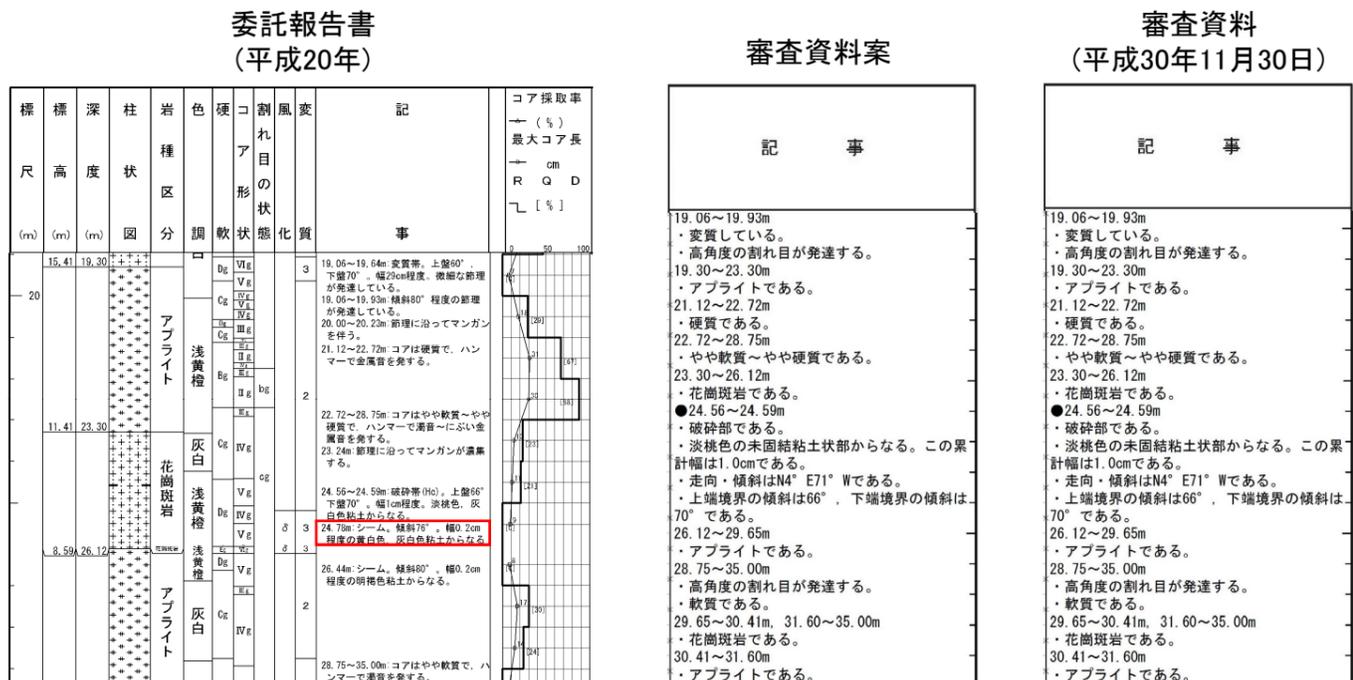


凡例
← シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-④-4孔 24.78m)

・粘土状を呈するが、その分布はゆるく湾曲し直線性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



委託報告書 (平成20年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
24.78m:シーム。傾斜76°。幅0.2cm程度の黄白色、灰白色粘土からなる。	記載なし	記載なし



凡例
← シーム

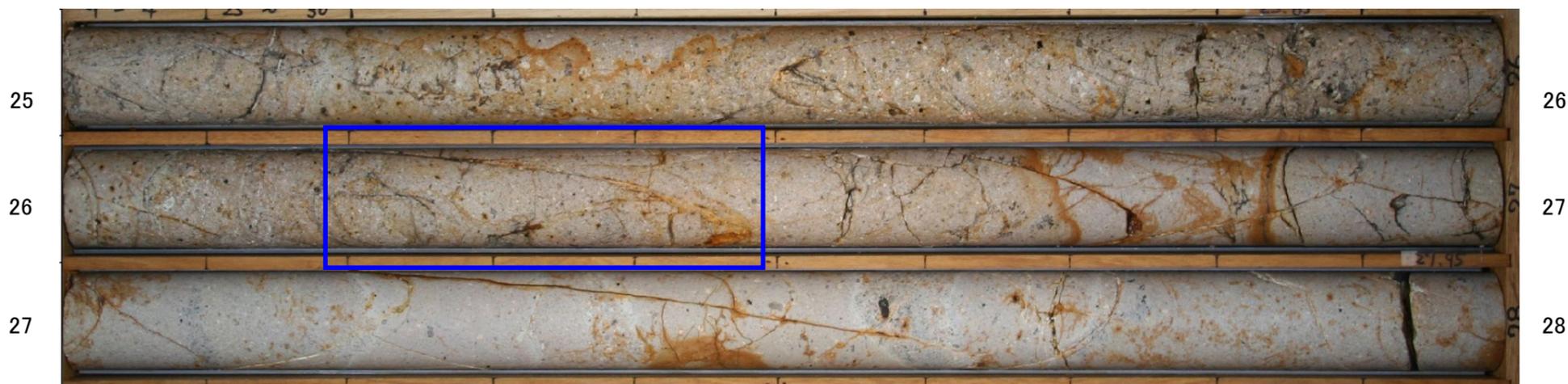
0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-④-4孔 26.44m)

・粘土状を呈するが、その分布は殲滅し連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。

委託報告書 (平成20年)										審査資料案		審査資料 (平成30年11月30日)		
標尺	標高	深度	柱状	岩種	色	硬軟	割れ目	風変	記	コア採取率	記事		記事	
(m)	(m)	(m)	図	区分	調	状	の	化	事	(%)				
							形状	質		最大コア長				
										cm				
										R Q D				
										L [%]				
15.41	19.30			アブライト	浅黄橙	硬	割れ目	変	19.06~19.64m: 実質帯、上盤60°、下盤70°。幅20cm程度。微細な節理が発達している。	19.06~19.93m ・変質している。 ・高角度の割れ目が発達する。	19.06~19.93m ・変質している。 ・高角度の割れ目が発達する。			
11.41	23.30			花崗斑岩	灰白	軟	割れ目	変	19.64~19.83m: 傾斜80°程度の節理が発達している。	19.30~23.30m ・アブライトである。	19.30~23.30m ・アブライトである。			
8.59	26.12			アブライト	浅黄橙	硬	割れ目	変	20.00~20.23m: 節理に沿ってマンガンを含む。	21.12~22.72m ・硬質である。	21.12~22.72m ・硬質である。			
				アブライト	灰白	軟	割れ目	変	21.12~22.72m: コアは硬質で、ハンマーで金属音を発する。	22.72~28.75m ・やや軟質~やや硬質である。	22.72~28.75m ・やや軟質~やや硬質である。			
				アブライト	浅黄橙	硬	割れ目	変	22.72~28.75m: コアはやや軟質~やや硬質で、ハンマーで金属音を発する。	23.30~26.12m ・花崗斑岩である。	23.30~26.12m ・花崗斑岩である。			
				アブライト	灰白	軟	割れ目	変	23.30~26.12m: 節理に沿ってマンガンが濃集する。	24.56~24.59m ・破碎部である。	24.56~24.59m ・破碎部である。			
				アブライト	浅黄橙	硬	割れ目	変	24.56~24.59m: 破砕帯(Hc)。上盤66°、下盤70°。幅1cm程度。淡桃色、灰白色粘土からなる。	26.12~29.65m ・アブライトである。	26.12~29.65m ・アブライトである。			
				アブライト	浅黄橙	硬	割れ目	変	24.78m: シーム。傾斜76°。幅0.2cm程度の黄白色。灰白色粘土からなる。	28.75~35.00m ・高角度の割れ目が発達する。	28.75~35.00m ・高角度の割れ目が発達する。			
				アブライト	灰白	軟	割れ目	変	26.44m: シーム。傾斜80°。幅0.2cm程度の明褐色粘土からなる。	29.65~30.41m, 31.60~35.00m ・軟質である。	29.65~30.41m, 31.60~35.00m ・軟質である。			
				アブライト	浅黄橙	硬	割れ目	変	28.75~35.00m: コアはやや軟質で、ハンマーで金属音を発する。	30.41~31.60m ・花崗斑岩である。	30.41~31.60m ・花崗斑岩である。			
				アブライト	灰白	軟	割れ目	変		31.60~35.00m ・アブライトである。	31.60~35.00m ・アブライトである。			

委託報告書 (平成20年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
26.44m:シーム。傾斜80°。幅0.2cm程度の明褐色粘土からなる。	記載なし	記載なし



凡例
← :シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-④-4孔 32.51m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。

委託報告書 (平成20年)

標尺	標高	深度	柱状図	岩種	色調	硬軟	割れ目の形状	変質	記	コア採取率
(m)	(m)	(m)							事	(%)
	5.06	29.65		花崗斑岩					29.00~35.00m 傾斜75°程度の節理が発達している。	→
	4.30	30.41		花崗斑岩					30.41m 径2~5mm程度の長石の斑晶が断続的に分布する。傾斜56°程度。	→
	3.11	31.60		花崗斑岩					32.51m シーム。傾斜83°。幅0.1cm程度の暗灰色、明褐色、白色粘土からなる。周辺は同系統の節理が発達している。	→
				花崗斑岩					33.96~35.00m 節理に沿ってマンガンを含んでいる。	→
				花崗斑岩					34.13m シーム。傾斜82°。幅0.1cm程度の暗灰色、白色粘土からなる。周辺は微細な節理が発達している。	→
	-0.29	35.00		花崗斑岩						→

審査資料案

記事
33.96~35.00m ・高角度の割れ目が発達している。 ・割れ目に沿って褐~白色の粘土を挟む。

審査資料 (平成30年11月30日)

記事
33.96~35.00m ・高角度の割れ目が発達している。 ・割れ目に沿って褐~白色の粘土を挟む。

委託報告書 (平成20年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
32.51mシーム。傾斜83°。幅0.1cm程度の暗灰色、明褐色、白色粘土からなる。周辺は同系統の節理が発達している。	記載なし	記載なし



凡例
← シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-④-4孔 34.13m)

・粘土状を呈するが、その分布は湾曲し直線性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。

委託報告書 (平成20年)

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	変質	記	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]
(m)	(m)	(m)							事	
	5.06	29.65		花崗斑岩					29.00~35.00m 傾斜75°程度の節理が発達している。	
	4.30	30.41		花崗斑岩					30.41m 径2~5mm程度の長石の斑晶が脈状に分布する。傾斜56°程度。	
	3.11	31.60		花崗斑岩					32.51m シーム、傾斜83°、幅0.1cm程度の暗灰色、明褐色。白色粘土からなる。周辺は同系統の節理が発達している。	
				花崗斑岩					33.96~35.00m 節理に沿ってマンガンを伴う。	
				花崗斑岩					34.13m シーム、傾斜82°、幅0.1cm程度の褐色。白色粘土からなる。周辺は微細な節理が発達している。	
	-0.29	35.00		花崗斑岩						

審査資料案

記	事
33.96~35.00m	・高角度の割れ目が発達している。 ・割れ目に沿って褐~白色の粘土を挟む。

審査資料 (平成30年11月30日)

記	事
33.96~35.00m	・高角度の割れ目が発達している。 ・割れ目に沿って褐~白色の粘土を挟む。

委託報告書 (平成20年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
33.96~35.00m: 節理に沿ってマンガンを伴う。 34.13m シーム、傾斜82°、幅0.1cm程度の褐色、白色粘土からなる。周辺は微細な節理が発達している。	33.96~35.00m ・高角度の割れ目が発達している。 ・割れ目に沿って褐~白色の粘土を挟む。	33.96~35.00m ・高角度の割れ目が発達している。 ・割れ目に沿って褐~白色の粘土を挟む。



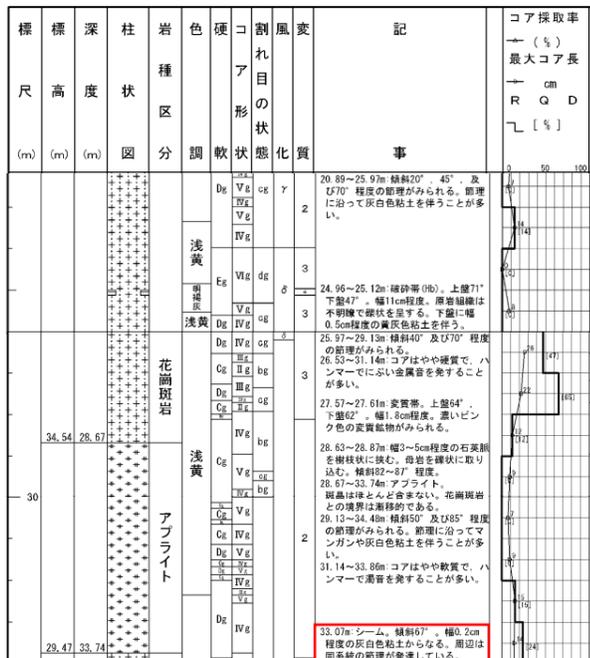
凡例
← シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-④-5孔 33.07m)

・粘土状を呈するが、その分布は局所的であり連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。

委託報告書 (平成20年)



審査資料案

記事
<ul style="list-style-type: none"> ●24.96～25.12m(D-21破碎帯) ・破碎部である。 ・明褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN11° E62° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は71°、下端境界の傾斜は47°である。 27.57～27.61m ・変質している。 ・軟質化している。 28.63～28.87m ・幅3～5cmの石英脈を挟む。 28.67～33.74m ・アブライトである。 ・花崗斑岩との境界は漸移的である。

審査資料 (平成30年11月30日)

記事
<ul style="list-style-type: none"> ●24.96～25.12m(D-21破碎帯) ・破碎部である。 ・明褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN11° E62° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は71°、下端境界の傾斜は47°である。 27.57～27.61m ・変質している。 ・軟質化している。 28.63～28.87m ・幅3～5cmの石英脈を挟む。 28.67～33.74m ・アブライトである。 ・花崗斑岩との境界は漸移的である。

委託報告書 (平成20年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
33.07mシーム。傾斜67°。幅0.2cm程度の灰白色粘土からなる。周辺は同系統の節理が発達している。	記載なし	記載なし

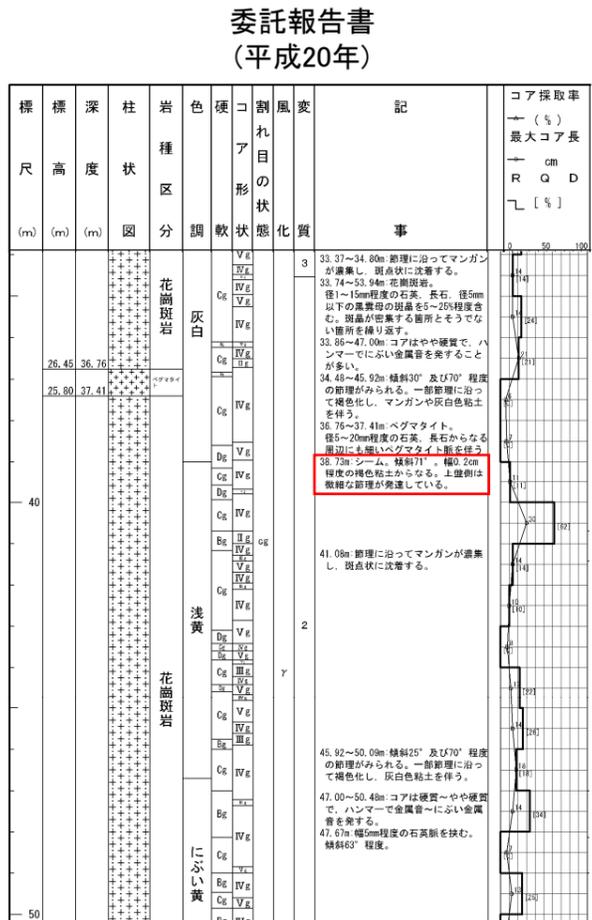


凡例
← :シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-④-5孔 38.73m)

・粘土状部に沿って、原岩組織が不明瞭となる部分が分布していることから、破碎部として認定した。
直線的・連続的な粘土状部の分布が認められないことから、カタクレーサイトであると判断した(平成20年破碎部再観察結果)。



審査資料案

記事
36.76~37.41m ・ペグマタイトである。
●38.73~38.74m(f-④-9-1破碎帯) ・破碎部である。 ・褐色の固結粘土状部からなる。 ・走向・傾斜はN9° E70° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。
47.67m ・幅5mmの石英脈を挟む。

審査資料 (平成30年11月30日)

記事
36.76~37.41m ・ペグマタイトである。
●38.73~38.74m(f-④-9-1破碎帯) ・破碎部である。 ・褐色の固結粘土状部からなる。 ・走向・傾斜はN9° E70° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。
47.67m ・幅5mmの石英脈を挟む。

委託報告書 (平成20年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
38.73m:シーム。傾斜71°。幅0.2cm程度の褐色粘土からなる。上盤側は微細な節理が発達している。	●38.73~38.74m(f-④-9-1破碎帯) ・破碎部である。 ・褐色の固結粘土状部からなる。 ・走向・傾斜はN9° E70° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。	●38.73~38.74m(f-④-9-1破碎帯) ・破碎部である。 ・褐色の固結粘土状部からなる。 ・走向・傾斜はN9° E70° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。



凡例
← :シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-④-6孔 13.30m)

・粘土状を呈するが、その分布は湾曲・殲滅し直線性・連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。

委託報告書 (平成20年)

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色調	硬軟	割れ目の形状	風変	変質	記	コア採取率		
(m)	(m)	(m)	図	区分			状態	化	質	事	(%)		
10	15.16	18.00	14.73	18.43	アプライト	淡橙				5.16~35.00m: アプライト主体。径1~5mm程度の石英、長石、径3mm以下の黒雲母の現品を1~5%程度含む。花崗斑岩との境界は漸移的である。 6.83~8.35m: 傾斜75°程度の節理が発達している。節理に沿って灰白色粘土を伴うことが多い。 7.17m: 節理に沿ってマンガンが濃集する。 7.94~9.00m: 破碎帯(H)。上盤75°、下盤75°。幅27cm程度。固結組織が認められるが、節理に沿って灰白色粘土が不規則な形状で分布する。下盤には疎ぼり黄白色粘土を伴う。下盤側には微細な節理が発達している。 8.55~35.00m: 傾斜20°、50°及び75°程度の節理が密着している。節理に沿ってマンガンや灰白色粘土を伴うことが多い。 10.65~11.10m: 変質帯。上盤55°、下盤72°。幅19cm程度。上部は緑柱を呈し、マンガンが濃集する。下部は灰白色粘土が網目状に分布する。 13.30m: シーム。傾斜81°。幅0.3cm程度の黄白色粘土からなる。周辺の節理を切っている。 14.73~14.94m: 変質帯。上盤52°、下盤48°。幅14cm程度。灰白色粘土及びマンガンが網目状に分布する。 14.94~14.98m: 破碎帯(Hc)。上盤48°、下盤不明。幅2.7cm程度。疎ぼり灰白色粘土からなり、上盤には幅0.3cm程度の淡桃色粘土を伴う。 14.98~15.27m: 変質帯。上盤不明、下盤50°。幅19cm程度。灰白色粘土及びマンガンが網目状に分布する。	2	50	100

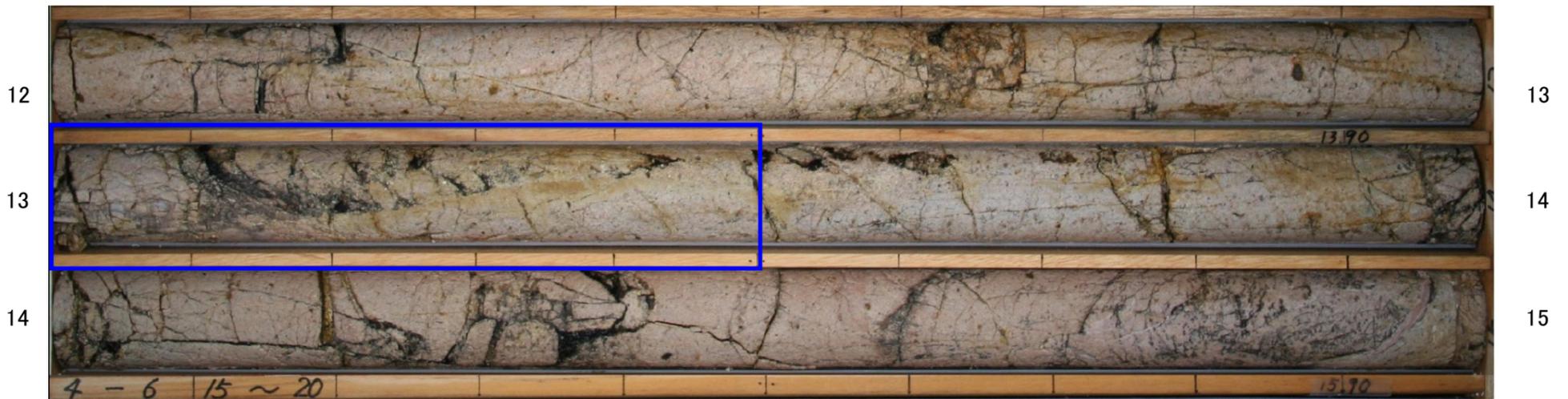
審査資料案

記	事
5.16~35.00m	・アプライトが主体である。 ・花崗斑岩との境界は漸移的である。 ●7.94~9.00m(f-④-6-2破碎帯) ・破碎部である。 ・赤褐色の固結状態からなる。 ・走向・傾斜はN71° W79° Sである。 ・フィルム状の粘土を挟む。 ・上端境界の傾斜は75°、下端境界の傾斜は75°である。 10.65~11.10m ・変質している。 ・礫状~灰白色粘土が網目状に分布する。 14.73~14.94m ・変質している。 ・マンガンと灰白色粘土が網目状に分布する。 ●14.94~14.98m(f-④-6-3破碎帯) ・破碎部である。 ・左ずれ正断層センスである。 ・主に淡橙色の固結粘土状部からなる。 ・淡桃色の未固結粘土状部: 累計幅0.3cm ・走向・傾斜はN55° E69° Sである。 ・上端境界の傾斜は48°である。 14.98~15.27m ・変質している。 ・灰白色粘土とマンガンが網目状に分布する

審査資料 (平成30年11月30日)

記	事
5.16~35.00m	・アプライトが主体である。 ・花崗斑岩との境界は漸移的である。 ●7.94~9.00m(f-④-6-2破碎帯) ・破碎部である。 ・赤褐色の固結状態からなる。 ・走向・傾斜はN71° W79° Sである。 ・フィルム状の粘土を挟む。 ・上端境界の傾斜は75°、下端境界の傾斜は75°である。 10.65~11.10m ・変質している。 ・礫状~灰白色粘土が網目状に分布する。 14.73~14.94m ・変質している。 ・マンガンと灰白色粘土が網目状に分布する。 ●14.94~14.98m(f-④-6-3破碎帯) ・破碎部である。 ・左ずれ正断層センスである。 ・主に淡橙色の固結粘土状部からなる。 ・淡桃色の未固結粘土状部: 累計幅0.3cm ・走向・傾斜はN55° E69° Sである。 ・上端境界の傾斜は48°である。 14.98~15.27m ・変質している。 ・灰白色粘土とマンガンが網目状に分布する

委託報告書 (平成20年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
13.30mシーム。傾斜81°。幅0.3cm程度の黄白色粘土からなる。周辺の節理を切っている。	記載なし	記載なし

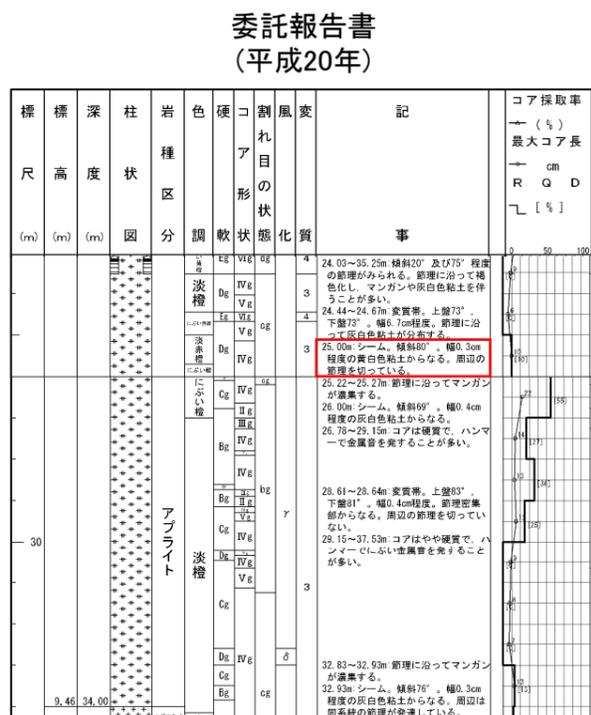


凡例
← :シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-④-7孔 25.00m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



審査資料案
記事

審査資料
(平成30年11月30日)
記事

該当記事なし

該当記事なし

委託報告書 (平成20年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
25.00m:シーム。傾斜80°。幅0.3cm程度の黄白色粘土からなる。周辺の節理を切っている。	記載なし	記載なし

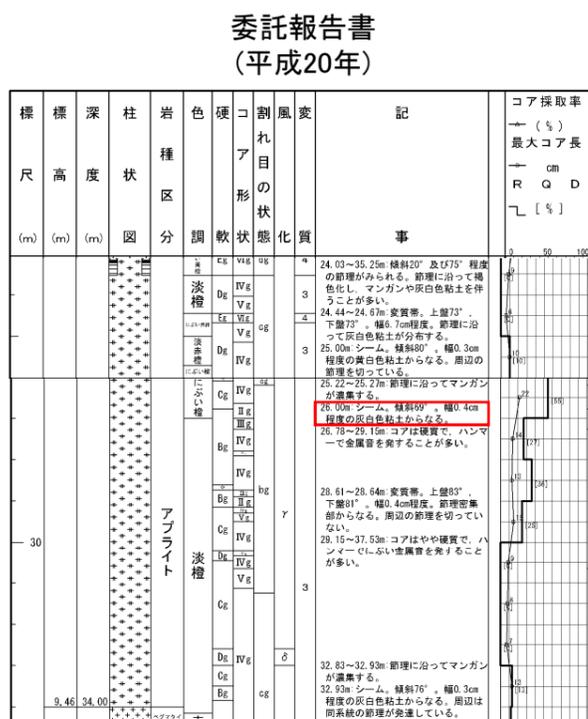


凡例
← :シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-④-7孔 26.00m)

・粘土状部にせん断構造・変形構造が認められず、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



委託報告書
(平成20年)

審査資料案

記事

審査資料
(平成30年11月30日)

記事

該当記事なし

該当記事なし

委託報告書 (平成20年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
26.00m:シーム。傾斜69°。幅0.4cm程度の灰白色粘土からなる。	記載なし	記載なし



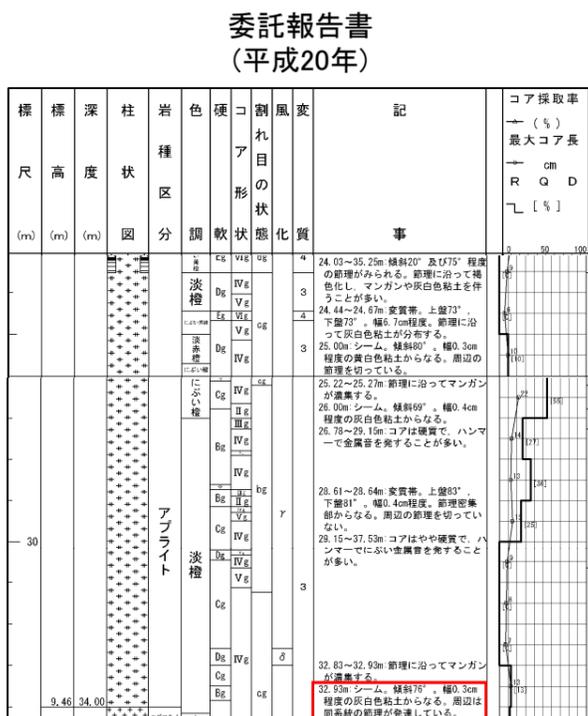
凡例

← :シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H20-④-7孔 32.93m)

・粘土状を呈するが、その分布は殲滅し連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。



審査資料案
記事

審査資料 (平成30年11月30日)
記事

該当記事なし

該当記事なし

委託報告書 (平成20年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
32.93m: シーム。傾斜76°。幅0.3cm程度の灰白色粘土からなる。周辺は同系統の節理が発達している。	記載なし	記載なし



凡例
← : シーム

0 5 cm

余白